



ツネ ログ #07

2025年3月号

皆さん、こんにちは。

昨年9月にスタートした「47FA訪問会議」もようやく半数を超え、現在は“後半戦”に入っています。過日、高知県サッカー協会（FA）を訪れた際には高知県庁、高知市役所に伺い、高知ユナイテッドSCのJリーグ入会による地域の盛り上がりや肌で実感できました。Jリーグの試合が開催されるという期待感が本当に大きく、高知ユナイテッドSCの存在自体が地域を活気づけている印象を受けました。今後盛り上がりや広がりを見せていけば、モメンタム（機運）が生まれてクラブの環境整備も含めて次のステップにつなげていけるのではないのでしょうか。そのためにもクラブがJリーグで定着していくために競技、運営の両面において力をつけていくことが求められると思います。

47FAを訪れる中で私がちょっとした楽しみとしているのが、町をランニングすることです。宿泊するホテルのジムにあるトレッドミルで済ませるよりもせっかく訪れた町を知りたいと、外に出て走るようにしています。それぞれ赴きの違った町並み、風景があります。高知では市内の中心部を流れる鏡川、国の重要文化財となっている高知城を眺めながら走ることでとても清々しい気持ちになりました。思い返すと川沿いもそうですが、愛媛では松山城、和歌山では和歌山城、佐賀では佐賀城など城近くのコースを好んでいることに気づきます。これから訪れる地域でも、川や城があれば走ってみたいですね。おすすめのランニングコースがあればぜひ教えていただければと思います。

今年2月で48歳になりました。現役を引退してから13年ほど経ちますが、いくら忙しかろうが体を動かさないとどうも落ち着きません。出張中であってもランニングは基本的に欠かしたくはありません。大体、早朝に30分ほど、距離で言うと約5kmを走るようにしています。調子が良ければ1km5分ペースくらいでしょうか。外の空気を吸いながら気持ちのいい汗を流すことが自分にとって心身のバランスを整えるルーティンにもなっています。何よりも走った後の食事が美味

しいんですね。地域の特産物をより楽しむことができます。おかげさまで現役時代とあまり変わらない体重を何とかキープできています。足の筋肉はだいぶ落ちてしまいましたが、筋力トレーニングも続けています。いい仕事をしていくにはグッドコンディションを保っていかなければなりませんし、生涯プレーヤーとしてサッカーを楽しむためにも無理のない範囲でトレーニングすることは大切です。

47FA訪問会議は夏までに全ての地域を回り終わる予定です。しっかりと“完走”し、各地で把握した現状や課題を改善につなげていきたいと思っています。

公益財団法人
日本サッカー協会 会長

宮市恒靖



理事会トピックス



2025年度第2回理事会が2月13日(木)、JFAハウスで開催されました。主なトピックスをお伝えします。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。

決議事項

医学委員会にWEリーグチームドクター部会を設置

WEリーグはこれまで独自に医事活動に取り組んできましたが、JFAとWEリーグ双方でメディカル面からリーグの発展を目指すため、JFAの医学委員会の中にWEリーグチームドクター部会を設置することになりました。同部会は、WEリーグの医事活動のほか、選手の健康管理、女性特有の外傷・障害に関することなども所管します。

医学委員会 委員の選任

AC長野パルセイロのチーフドクターを務める相澤充氏(Aiクリニック整形外科・リハビリテーション科院長)が医学委員会の委員に選任されました。相澤氏は前述のWEリーグチームドクター部会長に就きます。

令和6年能登半島地震および能登半島豪雨災害の支援活動

石川県サッカー協会(石川県FA)および北信越サッカー協会は能登半島地震復興支援活動の一環として、JFAと連携しながら両協会のチーム・選手・審判の登録料を免除してきましたが、その免除額相当分を能登半島地震復興支援金からそれぞれ交付することが決まりました。

加えて、被災した6市町(七尾市、輪島市、珠洲市、志賀町、穴水町、能登町)の登録者(チーム、指導者、審判)および石川県FAが必要と認められた者を対象に、2025年度の登録費の免除と資格更新における特別対応措置を延長することになりました。

また、石川県FAの北野孝一会長が復興支援特任リーダーに再任されました。契約は2026年3月31日までで、引き続き能登半島地震の被災地における支援活動をけん引していただきます。

報告事項

新たに3人がProライセンスを取得

Jクラブや日本代表チームを率いる上で必要とされる「Proライセンス(旧S級コーチライセンス)」について、Proライセンスコーチ養成講習会を受講し、全ての評価項目に合格した3人が同ライセンスを取得しました。元日本代表で現在は横浜FCのコーチである中村俊輔氏、静岡産業大学サッカー部ヘッドコーチの加藤知弘氏、2023年まで東京大学運動会ア式蹴球部の監督を務めていた林陵平氏で、24年度を受講生としてはこれで20人中9人が認定されたこととなります。Proライセンスコーチ認定者数は合計で590人になりました。

Information

女子育成年代の「強化・育成費用」を集めるクラウドファンディングを実施

株式会社CAMPFIREの協力の下、2025年2月3日から同3月31日まで、U-16/U-17/U-19日本女子代表の「強化・育成資金」を集めるためのクラウドファンディングを実施します。これは、皆さまのご支援により若い選手に高いレベルの試合環境を提供し、将来、なでしこジャパンの主力となる選手を育成・強化して日本女子サッカーを「再び世界一」に導くために実施するものです。また、これにあわせて地域の子供チームの起案をより促進するため、女子チームの過去の事例紹介や起案相談窓口を用意。女子サッカーに注目が集まるタイミングで、地域の子供チームの資金調達を支援したい考えです。

※1/27発表

JFAこころのプロジェクト「ZOJIRUSHIユメセンサーキット2025」の開催

JFAこころのプロジェクトの支援企業である象印マホービン株式会社の協賛の下、2025年5月下旬から10月下旬にかけて、「ZOJIRUSHIユメセンサーキット」を全国で開催します。13年目となる今年度は5校を募集し(募集は3月7日に終了)、新5年生を対象に「夢の教室」を実施します。※2/3発表

天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会の大会日程を発表

第105回天皇杯の大会日程が決定しました。同大会は2025年5月24日(土)、25日(日)に開幕。J1、J2、アマチュアシードおよび都道府県代表の全88チームがノックアウト方式で日本一を競います。準決勝は11月16日(日)、決勝は11月22日(土)に開催します。※2/4発表

その他の主なニュース

・「育成年代応援プロジェクト JFA アディダスDREAM ROAD」2024年度第4弾・UANLティグレスへの短期留学が決定(2/10発表)

・「2025 Jリーグ レフェリング スタンダード」(※)の映像を公開(2/13発表)

※選手に求めるプレーや昨シーズンの事例に、FIFAの競技規則に基づく解説を加えたもの

「JFA×MS&AD なでしこ”つぼみ”プロジェクト」2025年度支援クラブ募集

JFAメジャーパートナーのMS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社と実施している価値共創事業「JFA×MS&AD なでしこ”つぼみ”プロジェクト」において、2025年度に支援する3クラブを募集しました(募集は2月20日に終了)。

本プロジェクトは2024年11月にスタート。持続可能なスポーツ環境を創出するために、自治体と連携した中学生年代女子向けクラブの創設や運営を支援し、事例発信などを行うもので、対象クラブには、JFAがクラブ運営のサポートや運営費の補助等を行います。今回の支援期間は2025年4月1日から26年12月31日までとなっています。※2/6発表

「JFA・キリン ビッグスマイルフィールド」を金沢で開催

JFAとJFAオフィシャルトップパートナーのキリンホールディングス株式会社(以下、キリン)は4月20日(日)、石川県金沢市の金沢ゴーゴーカレースタジアムで「JFA・キリン ビッグスマイルフィールド」を開催します。これは能登半島地震復興支援プロジェクトの一環として実施しているもので、昨年、石川県で行った能登町、輪島市(門前地区と輪島地区)、珠洲市に続く開催です。当初は2024年10月13日に実施する予定でしたが、同年9月に発生した能登半島豪雨の影響により延期となっていました。

今回は地震で被災された方や金沢市に避難されている方をスタジアムに招待し、元日本代表の福西崇史さん、鈴木啓太さん、元なでしこジャパン(日本女子代表)の澤穂希さん、宮間あやさんらとウォーキングフットボールなどを通じて交流します。※2/12発表



JFA復興支援特任リーダー

北野孝一さんを

マンマーク!

昨年1月に発生した令和6年能登半島地震を受け、JFAは石川県サッカー協会(FA)と力を合わせて復興支援活動に取り組んでいます。今回のゲストは石川県FA会長でJFA復興支援特任リーダーを務める北野孝一さんです。

「能登を忘れないでほしい」

宮本 現地で状況を分かっている方に(JFA復興支援特任リーダーを)担っていただくことがベストだということで北野さんをお願いしたのが1年前。長年続けられた小学校教員の仕事から離れるタイミングでした。

北野 本当にありがたい話でしたね。私の実家も被災地域にあって、1月3日に能登に入った際には呆然としました。復興に向けて私には何ができるのだろうと考えていたときに、力になれるかもしれない役目をいただいたことで、精いっぱいやらせてもらっています。

宮本 僕が最初に(被災地域の)輪島に入ったのが3月。水道が止まっていたり、花が手向けられている場所があったり、地震の爪痕を目の当たりにしました。(マリンタウンの)人工芝が剥がされて、そこに仮設住宅がつけられていくんだ、と。サッカーをする場所や機会がなくなる中で、われわれはどうしていきべきかと考えさせられましたね。

北野 学校の運動場もそうです。子どもたちにはサッカーどころか運動する環境がない。これは(課題として)ずっとあって、ピッチを戻すこともそうですが、子どもたちに運動する機会をつくっていくことが大事。そういった中でサッカーファミリーの方々も被災地域に来て、一緒にサッカーをやって子どもたちがひとときでも笑顔になってくれる機会をつくれているのはとても大きいと感じています。

宮本 昨年7月の「JFA・キリン ビッグスマイルフィールド」に僕も参加させていただきました。珠洲市の中学校でウォーキングフットボールをやったんですけど、子どもたちはもちろん、大人の皆さんにも笑顔になってもらえて。われわれにできることはこれだとあらためて思いましたね。ほかにも試合やJFA夢フィールドに被災地域の子もたちを招待して非日常を経験してもらうことなど、パートナー企業と一緒に今後ともやれることは多くあるのかなと思いますね。

北野 JFA、日本財団さんの協力もあって昨年12月までに被災地域にある幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校など125カ所を訪問できました。給食時間にわざわざ玄関までみんな出てきて「ありがとう!」って手を振ってくれたこともあって、涙が出そうになりましたよ。

宮本 うれしかったことと言えば珠洲市を訪れたとき、2011年の東日本大震災で被災した当時小さかった女の子が、ボランティアに参加してくれていたんです。「自分はサッカーの力で笑顔になった。救われた気持ちになった」と言ってもらえて。サッカーの力、スポーツの力で何かものが、こうやってつながっていくんだなって。

北野 本日に代表OB、OGの方もいっぱい来てくれています。この前は松井大輔さん(日本フットサルトップリーグ理事長)にも来ていただいて、今後はフットサルでも一緒にやっていきたいと思います。

宮本 ツエーゲン金沢も地元のクラブとして、トップチームが被災地訪問をしたり、アカデミーがボランティア活動をしたり、地元にいる意味を理解しながら(支援活動を)やってくれていますよね。

北野 できることをできるだけやっというのが復興プロジェクトのテーマでもあります。

宮本 できることをできるだけというのは、昔から先輩たちがやってきたこと。われわれもそのマインドを引き継いでいくとともに、もっと発信していくとか、JFAがハブとなっている人をつないで他のスポーツと一緒にやるとか。別に自分たちが引っ張るわけではなく、つないだり、一緒にやりましようと呼びかけて、巻き込む力が(サッカー界に)あると思っています。

北野 ハード面で言えば、繰り返しますがサッカーをする場がなくなっているので、何とかしたいですね。

宮本 行政を巻き込みつつ一緒にやっていく必要があると思っています。

北野 (支援活動の)継続こそが大事。被災地の方に話を聞いても「忘れられてしまうのが一番怖い」と。だからわれわれは被災地の皆さんが立ち直るところまで、できる限り継続していかなければなりません。

宮本 ちょっとずつ前向きになられていた被災者の方が、昨年の豪雨被害で気持ち的にしんどくなっているという話は北野さんからも聞いていました。まだまだ厳しい状況にある人たちのことを忘れてはいけないし、これからもJFAは発信をしていきたい。サッカーファミリー以外の方にも気にかけてもらって、少しでも何かできることを、行動に移してもらおう。そんなきっかけをわれわれはつくっていきたくと思っています。

北野 サッカーファミリーのみならず国民の皆さん全体に気に掛けていただき、支援していただいて、石川県民の一人として本当に感謝しています。これからも継続的に、ぜひ力を貸してください。よろしくお願いいたします。

北野孝一 (きたの・こういち)

1963(昭和38)年10月27日生まれ。石川県出身。県立羽咋高校、筑波大学、金沢サッカークラブ(現ツエーゲン金沢)でプレー。87年より講師、教諭として小学校に勤務。石川県FAでは技術委員や47FAユースダイレクター、女子サッカー普及コーディネーター、理事、常務理事などを歴任し、JFAキッズプロジェクトや小学校体育サポートプロジェクトにも従事。2024年4月よりJFA復興支援特任リーダーとして、能登半島の復興支援に尽力している。同年6月～石川県FA会長。

